

【評価基準】 A:80%以上達成 B:60%以上達成 C:60%未満

【アンケートの評価規準】◎:80%以上が肯定 ○:60%以上が肯定 △:60%未満が肯定

項目	小項目(重点目標)	設問番号	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果			
								肯定		否定	
								1	2	3	4
よく考え、よく学ぶ子	○生きて働く知識と技能 ○思考力・判断力・表現力 ○主体的・対話的で深い学び	1	児童が目当てをもって主体的に学習に取り組む指導や特別支援教育の視点に立った指導を行い、分かる楽しい授業を心掛けた。 目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)	A	○設問1では、教職員の肯定率が昨年度よりも15%下降した。タブレットを使用した学習が進められているものの、その利活用について、よりよい方法を試行錯誤している段階だと捉えている。加えて、深い学びへと学習を展開する際の、学び合いの展開について発達段階に応じた取り組みを進めていく。 ○設問2では、昨年度より、児童の肯定率が15%、教職員の肯定率が16%下降した。基礎的・基本的な学習内容の指導と定着が、不十分であると反省している。より授業改善を図りながら、学級担任や専科教員が協力して、個に応じた丁寧な指導・支援をしていく必要がある。 ○設問3では、三者ともに昨年度と同程度の結果である。「家庭学習の習慣が身に付いていない」と自己評価している児童が5%ある。さらに、学校と家庭が連携して見届けを行うとともに、児童が学習に取り組む意識を高めたり課題の与え方を工夫したりしていく必要がある。	教職員アンケート	◎	4%	76%	20%	0%
		2	学力の定着を目指し、思考力・表現力の育成や基礎・基本の理解を図ることに努めた。 目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)	A		教職員アンケート	◎	12%	72%	16%	0%
		3	家庭と連携し、家庭学習が身に付くように努めた。 目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)	A		教職員アンケート	◎	16%	76%	8%	0%
	※は教職員のみへの働き方に関する設問	※	実効性のある業務改善に取り組み、児童一人一人に向き合う時間の確保やワークライフバランスに努めた。	B	○業務改善と教職員の意識改革の成果が少しずつ表れている。今後も、「勤務時間と職務の縮減」と「教職員としてのやりがいの維持」のバランスを取りながら、業務改善の努力を続けていかなければならない。	教職員アンケート	○	12%	52%	36%	0%
思いやりのある子	○認め合い、支え合い、高め合う集団 ○いじめを許さない子どもと教師 ○人権・同和教育、特別支援教育	4・5	家庭・地域と連携して心のこもった挨拶ができる児童を育てることに努めた。 目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)	A	○設問4の保護者、設問5の児童と保護者の数値は、昨年度とほぼ同様であった。設問4の児童は、設問内容を昨年度と違って「家の人」と限定してしまったため数値が下降したと思われる。また、教職員の肯定率が16%下降しており、挨拶の指導が不十分であったと反省している。とはいえ、学校での気持ちのよい会釈や挨拶ができるのが岡田っ子のよさである。旗当番、見守り隊の皆様、ご家庭での声掛けの積み重ねによって、成果が得られていることに感謝したい。 ○設問6と設問7では、児童の数値は、昨年度とほぼ同様であった。保護者の数値が上昇しており、良好な集団づくりや人権・同和教育や特別支援教育の視点を根拠にした指導の積み重ねの成果が表れていると捉えている。コロナ禍で様々な制約は続いているが、感染防止対策を十分にとりながら、各学年の児童の実態や学習内容に応じて工夫して取り組んでいる。 ○設問8では、保護者の数値が上昇している。学校での子どもの学びを肯定的に捉えている家庭が増えていることに感謝したい。 ○設問9では、「心配ごとがない」と回答した児童が昨年度より26%上昇している。「心配なことがたまにあって気になる」と回答した児童が昨年度より10%減少、「わりとよくある」と回答した児童が昨年度より16%減少している。設問9-2では、「困ったときに相談している」が28%、「困ったときにたまに相談している」が12%、「あまり困っていない」が49%、「困っても相談しない」が11%となっている。心配ごとを学校で相談できない児童が約1割いる。担任を含めて様々な立場の教職員と児童が信頼関係を深めていけるようさらに努力していきたい。加えて、一人一人が抱えている心配ごとがどのようなことで、どうしたいと考えているのかの把握に努め、家庭や関係機関と連携していきたい。子どもを取り巻く「オール岡田」で多面的に対応していきたいと考えている。 ○「相談室」に外部委託の相談員がいるので、育児やご家庭での悩み等、何でも気軽に活用いただけるよう工夫したい。	教職員アンケート	○	12%	60%	28%	0%
		6	学級・学年などの活動を通して、認め合い、支え合い、高め合う集団づくりを推進した。 目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)	A		教職員アンケート	◎	28%	72%	0%	0%
		7	人権・同和教育、特別支援教育の視点を根拠にして、教育活動全体を通じて、豊かな心をもった児童を育てるようにした。 目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)	A		教職員アンケート	◎	12%	72%	16%	0%
		8・9	児童・保護者が相談しやすい体制を整え、いじめ・不登校・非行問題などへの積極的対応を心掛けた。 目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)	A		教職員アンケート	◎	24%	72%	4%	0%
		児童アンケート(家族)	◎	51%		35%	8%	6%			
		児童アンケート(地域)	◎	70%		23%	6%	1%			
		保護者アンケート(家族)	◎	47%		43%	9%	1%			
		保護者アンケート(地域)	◎	43%		37%	16%	4%			
児童アンケート	◎	56%	36%	6%	2%						
保護者アンケート	◎	62%	36%	2%	0%						
児童アンケート	◎	71%	24%	4%	1%						
保護者アンケート	◎	63%	35%	2%	0%						
児童アンケート(楽しさ)	◎	67%	25%	5%	3%						
保護者アンケート(楽しさ)	◎	61%	33%	5%	1%						
児童アンケート(心配事)	◎	69%	16%	12%	3%						
児童アンケート(相談体制)	△	28%	12%	49%	11%						
保護者アンケート(相談体制)	◎	53%	39%	7%	1%						
学校の対応					○引き続き、発達段階に応じて、家庭学習の習慣を身に付けさせる指導を工夫していく。 ○学級担任はもとより、児童の教育に携わる全教職員が、それぞれの立場を生かして、子どもたちの健全育成にかかわっていく。そのためには、今以上に、児童との信頼関係を築いた上で、「児童の変化や思いをキャッチする目や耳を大切にすることやそれらを共通理解するための「情報交換」、足並みをそろえてかかわっていく「意識統一」を大切にしていく。 ○本校区は教育力が高く、地域の方々や保護者による見守り活動のおかげで、登下校の安全が図られている。教職員も分担して定期的な登下校指導をしている。不審者事案の発生時には、見守り活動をその都度強化していただき、大変有り難い。登下校時の児童間のトラブル等において、学校で詳細に事情を聞き、指導している。						
学校関係者評価委員の所見			○タブレットの活用について、保護者の皆さんも関心があるようです。先生方もタブレットを活用した教育を一層進めていただきたいです。 ○タブレットの導入後、利活用が十分ではない部分の影響が見えます。今後の努力に期待します。 ○全国学力学習状況調査の結果が、全ての教科において県平均を上回っているということに、先生方や子どもたちの努力を感じます。より一層、学校と家庭の両方での学習習慣定着の工夫を願います。 ○よい連携が取れていると思う。 ○タブレットの利活用も拡大すると思いますが、楽しい授業になるようお願いします。 ○タブレットの毎日の持ち帰りは、子どもの負担になっていると思います。 ○家庭学習の習慣が身に付いていない児童が5%いるのは残念です。児童・保護者・教職員の方々が一体となって学習意欲の向上に向け、コミュニケーションを図り課題解決をしていただきたい。 ○よい教育環境で、よい教育活動ができていると思います。岡田っ子の育成をよろしく願っています。 ○コロナ禍での様々な取組、さぞ大変だったことでしょう。お疲れ様です。教育目標、児童像の追求に向けて評価を分析し、課題解決に努力されている様子がよくわかりました。 ○児童は登下校時に旗当番や見守り隊の皆さんに、気持ちのよい挨拶ができていますが、保護者の2割の方が見守り隊等の取り組みへの関心がないのは残念。 ○心配事を学校で相談できない児童が1割もいるのは問題です。児童と教職員との信頼関係の構築が必要です。 ○心配事があっても学校で相談できない児童から何か発信しているものがあると思うので、きめ細かく寄り添いキャッチしてほしい。これらからヤングケアラーの問題が潜んでいることもある。								

項目	小項目 (重点目標)	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果			
							肯定		否定	
							1	2	3	4
粘り強くやりぬく子	○目標に向かう意志 ○気持ちのよい挨拶と望ましい生活習慣 ○体力づくりとたくましい体	10 家庭と連携して、「早寝・早起き・朝ごはん運動」、家の手伝い、整頓等の基本的な生活習慣の定着に努めた。 目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)	A	○設問10「早寝・早起き・朝ごはん」では、昨年度と同程度の結果であった。昨年度もそうだったが、睡眠時間が不足していたり効率的な時間の使い方ができなかったりする児童が一定数見受けられる。最近では、低学年の児童でも、ゲームや動画の視聴、SNSの利用等によって、望ましい生活習慣が崩れてしまう傾向にある。個別に児童の実態を把握し、家庭と連携しながら根気強く対応していきたい。	教職員アンケート	○	36%	40%	24%	0%
		児童アンケート	◎	46%	39%	11%	4%			
		保護者アンケート	◎	51%	37%	9%	3%			
		11 望ましい食習慣の形成や自らの健康に関心をもち、健康づくりや体力づくりに励むように配慮した。 目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)	A	○設問11「健康づくり・体力づくり」でも、昨年度と同程度の結果であった。コロナ禍で制約はあるが、外遊びの有効性を確認しつつ、意図的に屋外での集団遊びをする機会を増やしている。最近では、すぐに「しんどい」「だるい」「めんどくさい」という言葉が出る児童が増えた印象がある。友達と遊ぶことに人間関係の困難さを感じている場合もあるが、それ以前に、年齢に応じた体力が身に付いていないという実態がある。健康づくり・体力づくりを通して、心も体もたくましく成長できるように工夫していきたい。	教職員アンケート	◎	12%	72%	16%	0%
		児童アンケート	◎	46%	36%	14%	4%			
		保護者アンケート	◎	36%	44%	19%	1%			
		12 家庭や地域と連携し、登下校の安全確保や不審者対策等による安心・安全な学校づくりを推進した。 目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)	A	○設問12「交通ルールの順守」では、三者ともに高い肯定率であった。特に児童の意識は高く、実際の登下校の様子や自転車の乗り方・ヘルメットの着用の様子を見ても安全意識の高さうかがえる。引き続き、学校と家庭・地域が連携して、繰り返し巻き返し指導していく必要がある。	教職員アンケート	◎	36%	60%	4%	0%
		児童アンケート	◎	86%	11%	2%	1%			
		保護者アンケート	◎	50%	47%	3%	0%			
		13 定期的な点検を行い、施設・設備の安全管理に努めた。 目標値:教職員、保護者の80%以上が肯定(1・2)	A	○設問13「安全な環境づくり」では、教員が毎月安全点検を行い、危険箇所の早期発見に努め、優先順位を決めて修繕等を行っている。マンネリ化を防ぐとともに、児童の目も借りながら注意深く点検を継続していきたい。	教職員アンケート	◎	12%	76%	12%	0%
		保護者アンケート	◎	50%	47%	2%	1%			
		家庭・地域	家庭・地域との連携	14 学校の情報発信をするとともに保護者や地域住民との連携が図られている。 目標値:教職員、保護者の80%以上が肯定(1・2)	A	○設問14では、学校教育への関心度が8%上昇した。コロナ禍で、保護者・地域の方々にご来校いただく機会が減り、教育活動を直接見て感じていただくことができないことが続いた。学年・学校通信、ホームページ等を通して、教職員からの情報発信をさらに充実しなければならないと考えている。その中でも、学校教育への関心度が高いのは、岡田小学校の保護者の皆様の教育力の高さを物語っている。 ○設問15では、家庭や地域からの声に、「迅速に」「誠実に」対応していくことを共通理解し、チームで取り組んでいる。しかしながら、教職員の肯定的な評価が10%下降しており、十分に対応できているという手ごたえが感じられていない状況である。今後、様々な機会を通して、しっかりと情報を共有し、連携を図っていききたいと思う。	教職員アンケート(情報発信)	◎	32%	56%
保護者アンケート(関心)	◎	54%	41%	4%	1%					
教職員アンケート(対応)	◎	32%	68%	0%	0%					
学校関係者評価委員の所見	○児童によってはゲームやSNSの利用等によって、早寝早起き朝ごはんの望ましい生活習慣が身に付いていない児童がいます。朝ごはんなしの児童がいれば深刻です。児童の実態を把握し、家庭と連携して根気よく指導していただきたい。 ○様々な理由で睡眠時間が不足している児童が多いようです。家庭の問題があると思いますが、時間をかけて繰り返し健康面からもしっかりと指導してもらいたい。 ○コロナ禍で、子どもたちの体力が落ちているとの報道がありました。今後は、学校・家庭・地域での活動が活発になっていくことを願っています。 ○コロナで行事の中止や人数制限で学校へ向うことができず、残念でした。 ○来年度こそ学校の踏行事に参観できますように。 ○コロナ禍で教育活動を見せたい機会が減りましたが、学校通信などで情報はいただいています。コロナ前は、5年生児童と餅つき体験を楽しみひと時を過ごしました。機会があれば再考ください。 ○コロナ禍で、学校を訪問する機会がなく、通学する子や孫もいないため、校内の事柄についての回答は難しいです。 ○コロナ禍で、地域での交流も減りました。今年からは地域での行事を復活させていきたいと思っています。 ○社会全体がウィズコロナで行く方向が明確になってきたので、地域連携もまたよくなっていくのではないかと思います。私たち大人も疲弊した人間関係やコミュニティ不足を解消していくうえで、お祭りやイベントなどを早く復活させ、明るく楽しい地域づくりに努力していきたいと思っています。 ○家庭と学校で連絡を密にして、岡田小学校の子どもたちはすくすくと成長していつか自立してほしいと思っています。 ○3年間途切れている学校行事への参加が早く復活しますように。楽しみに待っています。 ○家の前が子どもたちの通学班の集合場所になっています。毎日毎日、子どもたちに献身的に接しておられる見守りの方々の姿に頭の下がる思いです。感謝の気持ちを伝える機会などはあるのでしょうか。 ○1年間、子どもたちの登下校の時に見守りをしました。初めのころは恥ずかしがっていましたが、慣れてきて挨拶してくれるようになりました。気持ちのよい朝でした。岡田校区の小・中学生には親しみを感じます。これも先生方や保護者の皆様の日々の指導の賜物と確信しています。 ○朝の登校時に集合場所に出ています。明るく挨拶がよくできています。班長さんも優しくしっかりとっているのが安心しています。 ○小学校への登下校について、保護者や見守り隊等によって児童が安心・安全に通学できるよう配慮しています。しかし、道幅は狭く安全とは言えない状況です。 ○保護者から先生方への感謝の言葉が多いことに驚きました。これだけ信頼される先生方がおられるのはすばらしいと思います。それには、私たちが知らないところで先生方の学校全体の努力があるからこそと感じました。学校任せではなく、家庭はもちろん地域も共に子どもたちを見守り育てていけるようお役に立てればと思います。 ○保護者からの感謝と励ましの言葉がある中、厳しい要望など、たくさんの業務があり大変な中、丁寧に対応されていて頭が下がります。 ○岡田小学校の教育目標に向けて、教職員の皆様の取組心から感謝しています。引き続き、ご尽力くださいますようお願いいたします。 ○様々な考え方のある保護者がおられますが、岡田小学校の教育目標達成に向けて頑張ってください。 ○様々な角度からのご意見があり、考えさせられました。 ○子どもたちの中にはLGBTQについても発達段階で悩んでいる子もいます。高学年になるとトイレや更衣室への配慮も必要かと思えます。制服(標準服)についてもスカートが嫌な女子もいると思います。 ○学校通信の表面の文字数の多さに改善の余地あり。内容の充実とご苦勞に頭の下がる思いもするが、伝える側と読み手側のバランスも。		○児童の朝食の摂取を含めた望ましい生活習慣については、個への粘り強い働き掛けが大切であると考えている。引き続き、児童と家庭に応じたかかわり方を熟考し、少しずつでも変容がみられるように努めていきたい。 ○学校行事の多くは、コロナ禍にあって、感染防止対策を取りながらの実施方法を工夫し、なんとか当初のねらいを達成することができた。しかしながら、外部からの参観者はどうしても制限せざるを得ない行事等もあった。来年度からも、その時々状況に応じて、できる限りの教育活動が展開できるように願っている。 ○前述のとおり、本校は、地域の方々の見守りに支えられながら、登下校の安全や挨拶を中心とする健全育成の機会を確保している。今後は、マスクによって見えなかった笑顔と温かい気持ちが見えるようになり、爽やかにほっと安心する心の交流を図ることができるのではないかと期待している。 ○本校の全教職員は、それぞれの立場や役割を自覚し、全力で務めを果たしている。しかしながら、一人一人の児童への指導・支援が不十分であり、保護者の方々もしっかりとした共通理解の上に立ったかかわりができていないこともある。私たちは、日々の営みを謙虚に振り返り、迅速に対応・改善していくことによって、その務めを果たしていきたいと考えている。保護者や地域の方々からの励ましや温かい言葉、児童の学びを温かく見守る姿勢に感謝したい。 ○今後も、保護者や児童の健全育成に携わってくださっている地域の方々に、児童の学びの様子をお伝えする機会を充実していきたい。また、対面の機会を生かし、親交を図ることで、高い教育力を生かしていきたい。							